

JAPANESE FOR FOREIGNERS

外国人
のための

日本語例文・問題シリーズ

3

動

どうし

詞

VERBS

*Innovative
Workbooks
In Japanese*

監修 名柄 迪
■岩岡登代子 ■岡本きはみ 著

荒竹出版

外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 3

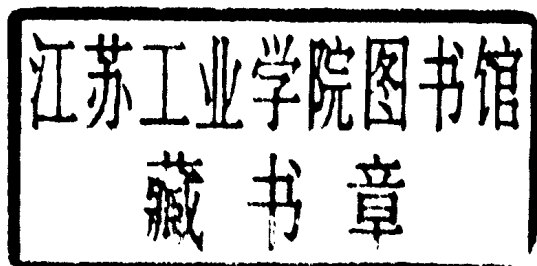
動

詞

岩岡 登代子

岡本 きはみ

共著



荒竹出版

著者紹介

岩岡登代子（いわおか・とよこ）

学習院大学国文学科大学院修士課程終了。上智大学で日本語教授法を学ぶ。ニュージャージー州公立学校で日本語と日本文化を教える。

岡本きはみ（おかもと・きわみ）

同志社大学英文学科卒業。上智大学で日本語教授法を学ぶ。現在翻訳業。

外国人のための日本語例文・問題シリーズ3

動詞

平成五年十月二十五日 印刷
平成五年十一月五日 印刷

著者 岩岡登代子
岡本きはみ

発行者 荒竹 勉

印刷／製本 中央精版印刷

発行所 荒竹出版株式会社

東京都千代田区神田神保町二―三四

郵便番号一〇一

電話 〇三―三二六二―〇二〇二

振替（東京）二―一六七―一八七

（乱丁・落丁本はお取替えいたしません）

ISBN4-87043-203-X C3081

監修者の言葉

このシリーズは、日本国内はもとより、欧米、アジア、オーストラリア、中国、韓国などで、長年、日本語教育にたずさわってきた教師四十二名が、言語理論をどのようにに教育の現場に活かすかという観点から、アイデアを持ち寄ってできたものです。私達は、日本語を教えている現職の先生方に使っていただけでなく、同時に、中・上級レベルの学生の復習用にも使えるものを作るように努力しました。

このシリーズの主な目的は、「例文・問題シリーズ」という副題からも明らかのように、学生には、今まで習得した日本語の総復習と自己診断のためのお手本を、教師の方々には、教室で即戦力となる例文と問題を提供することにあります。既存の言語理論および日本語文法に関する諸学者の識見を無視せず、むしろ、それを現場へ応用するという姿勢を忘れなかったという点で、ある意味で、これは教則本の実用文法シリーズと言えるかと思います。

iii 監修者の言葉

従来、文部省で認められてきた十品詞論は、古典文法論ではともかく、現代日本語の分析には不十分であることは、日本語教師なら、だれでも知っています。そこで、このシリーズでは、自立語では、動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞、副詞、接続詞、数詞、間投詞、コ・ソ・ア・ド指示詞の九品詞、付属語では、接頭辞、接尾辞、(ダ・デス、マス指示詞を含む)助動詞、形式名詞、助詞、助数詞の六品詞の、全部で十五に分類しました。さらに細かい各品詞の意味論的・統語論的な分類については、

各巻の執筆者の判断にまかせました。

また、活用形についても、未然・連用・終止・連体・假定・命令の六形でなく、動詞、形容詞ともに、十一形の体系を採用しました。そのため、動詞は活用形によって、u動詞、ru動詞、行く動詞、来る動詞、する動詞、の五種類に分けられることになります。活用形への考慮が必要な巻では、巻頭に活用の形式を詳述してあります。

シリーズ全体にわたって、例文に使う漢字は常用漢字の範囲内にとどめるよう努めました。項目によつては、適宜、外国語で説明を加えた場合もありますが、説明はできるだけ日本語でするように心がけました。

教室で使っていた際の際の便宜を考えて、解答は別冊にしました。また、この種の文法シリーズでは、各巻とも内容に重複は避けられない問題ですから、読者の便宜を考慮し、秋草短大の浅山佳郎氏に御協力をお願いして、別巻として総索引を加えました。

私達の職歴は、青山学院、獨協、学習院、恵泉女学園、上智、慶應、ICU、名古屋、南山、早稲田、国立国語研究所、国際学友会日本語学校、日米会話学院、コロンビア大、アイオワ大、朝日カルチャーセンター、アリゾナ大、イリノイ大、メリーランド大、ミシガン大、ミドルベリー大、ペンシルベニア大、スタンフォード大、ワシントン大、ウィスコンシン大、アメリカ・カナダ十二大学連合日本研究センター、オーストラリア国立大、ロンドン大学と多様ですが、日本語教師としての連帯感と、日本語を勉強する諸外国の学生の役に立ちたいという使命感から、このプロジェクトを通じて協力してきました。

国内だけでなく、海外在住の著者の方々とも連絡をとる必要から、名柄が「まとめ役」をいたしま

したが、たわむれに、私達全員の「外国語としての日本語」歴を合計したところ、580年以上にも及びました。この600年近くの経験が、このシリーズを使っていたく皆様に、いたずらな「馬鹿の積み重ね」に感じられないだけの業績になっていればいいというのが、私達一同の願いです。

このシリーズをお使いいただいて、*Two heads are better than one.* (三人寄れば文殊の知恵)とお感じになるか、それとも、*Too many cooks spoil the broth.* (船頭多くして船山に登る)とお感じになったか、率直な御意見をお聞かせいただければと願っています。

この出版を通じて、荒竹三郎先生に大変お世話になりましたことを、特筆して感謝したいと思います。

一九九三年 夏

ミシガン大学名誉教授
上智大学比較文化学部教授

名柄 迪

はしがき

動詞は名詞・形容詞とともに、日本語の中でもっとも重要な品詞であり、日本語を用いたコミュニケーションに不可欠な道具である。そのことは、日本語の構造を概観すれば、よく分かる。例えば、日本語は…Subject (主語) + Object (目的語・補語) + Verb (述語動詞) 言語だと言われるが、「ちょっと」「あの。」などの不完全な文を除いて、完成文中では、これらの3基本要素の中、述部だけが、不可欠な要素になっている。例えば、「待って」「駄目だ」とか「行った？」などの文は述部だけで一文を構成している。この述部を構成するもっとも重要な品詞が「動詞を含めた用言」である。そのためでもあろうが、動詞は社会環境の変化によって、意味や用途が多様化したり、他の品詞との融合や語彙の新旧交代が激しい品詞である。

外国語としての日本語動詞の用例に関する参考資料として、様々な初級教科書の外に以下のものがある。

- ① Samuel Martin, *Reference Grammar of Japanese* (New Haven, Conn., Yale Univ. Press, 1975)
- ② Seichi Makino, Michio Tsutsui, *A Dictionary of Japanese Grammar* (Tokyo, the Japan Times, 1986)
- ③ Yoko McClain, *Handbook of Modern Japanese Grammar* (口語日本文法便覧) (Tokyo, The Hokuseido Press, 1981)
- ④ 寺村秀夫『日本語のシンタックスと意味Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』(東京、くろしお出版、一九八四、一九九一)

- ⑤柴田武、他『ことばの意味Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（東京、平凡社、一九七六、一九八二）
- ⑥森田良行『基礎日本語辞典』（東京、角川書店、一九八四）
- ⑦『外国人のための基本語用例辞典』（東京、文化庁、一九七二）
- ⑧『日本語基本動詞用法辞典』（東京、大修館書店、一九八九）

日本語学習者の練習に役立つような学習参考書としては、

- ①砂川有里子「する・した・している」、寺村秀夫編『日本語文法セルフ・マスター・シリーズ2』（東京、くろしお出版、一九八六）
- ②文化庁企画ビデオ教材、『おばあさん、とつぜんかえる……している、してある、しておく……』（東京、インターコミュニケーション、一九七二）
- ③国立国語研究所企画『日本語教育映画基礎編4、5、9、11、12、14、15、16、17、24、25、26、27、28、29、30』
- ④三浦昭『初級ドリルの作り方』（東京、凡人社、一九八三）

ぐらいしかなく、すべて初級レベルの学習者を対象にしている。

本書の目標は、中上級の学習者に、これまで、いろいろ、疑問とされてきた日本語動詞の意味上の差異をはつきり認識させると同時に、それらを正確に、使用できるように習得する機会を与えることにある。

本シリーズの第四巻で「複合動詞」、第十巻で「敬語」の意味用法は紹介してある。

本書では単独動詞の意味用例とそれに基づいた練習問題を扱うのが目的であるので、項目、題目

は全て単独動詞に限ったが、用例や練習問題には、日常の自然な表現を紹介するために、動詞テ形＋イル、＋アル、＋イク、＋クル等の補助動詞との組み合わせもあえて使用した。

漢語・その外の外来語は「＋スル」をつけることで、簡単に動詞化できるので、現代日本語では、文語文のみならず口語文にも頻繁に使われている。しかし、「漢語＋スル」動詞形は、現代語辞典または漢和辞典・類義語辞典等を参照すれば、比較的容易に用例を見出せるので、本書では、できる限り和語に重点を置くことにした。ただ、意味上、類似の和語動詞がない場合、または、日常頻繁に使用される和語動詞と意味上はつきり区別して説明する必要がある「漢語＋スル」動詞形は本書に収録した。

個々の動詞の統語論的特色については、必要に応じて説明を加えた。

本書の編集初期に、南山大学副学長加藤俊一先生から数多くのご提案、ご指示をいただき防衛大
学校助教授池谷清美先生、AKP同志社留学センター講師荒井稚子先生に例文問題等の御提案をい
ただいたことをここに記し、感謝の意を表する。

本書の使い方

一 本書の構成

前述したように日本語の動詞は、意味や用途の多様化が著しい。この本で日本語動詞のすべてを収集し、その一つ一つについて、用法を語り尽くすことは不可能である。本書では、まず意味論的特色を述べた後、統語論的に日本語教育に於て重要な役割を果たす自動詞・他動詞の意味および用法上の特色に触れた。

ここでは、動詞の分類法として、様々なコミュニケーションの場における動詞の機能上・意味上の区別に重点を置き、一般日本社会で広い範囲の活動を行うために必要不可欠と考えられる重要な動詞を、和語動詞を中心に意味グループに分類し、各グループの動詞の用例を紹介し、説明に基づいた練習問題を付けた。次に「その他の動詞」の説明として、形が同じで意味上の区別をしない動詞の可能表現・受身表現・使役表現について、その特徴と各々の違いについて説明した。

収録した動詞の選択分類

I 動詞の収集に関しては、「日本語教育指導参考書9・日本語教育基本語彙七種比較対照表（東京大蔵省出版局一九八二）」および「大野晋・浜西正人著、角川類語新辞典（一九八一）」の語彙分類体系表」を、主に参考とし、日常生活に役立つ動詞とその用例を中・上級レベルの日本語学習者を対象にするという基準に基づいて選択収集した。

II 上に述べた方針に従って収集した動詞を、以下の2グループに分類した。

Aグループ「一つの意味用法に限定定義するには、あまりにも多様な用途を持つ動詞」

Bグループ〔使用目的によって、比較的明確に分類できる動詞〕

Ⅲ Aグループでは詳しく動詞の意味用法を取り上げたが、これによって日本語の動詞の特殊な使いかたや特色がお分かりいただけたと思われる。日本語学習者は、Aグループの動詞がマスターできれば、Aグループ以外の動詞や複合動詞の意味用法も類推することが可能となる。

④ 破る 紙を破る、約束を破る

し上げる ↓ する + 上げる Ⅱ 全部してしまう

Bグループの動詞は、更に、その使用目的 (Functional Notional Concepts) の概念を生かして動詞の使用される環境と使用目的によって分類を試みた。原則として一つの動詞の用例は、文脈が変わらない限り、一項目に限定する方針によったが、使う目的・状況によって微妙に意味が違ってくる語は、いくつかの項目にわたって例出してある。動詞の下位分類の基準になる言語使用のシチュエーションと目的に関しては、

Gail Guntermann & June K. Phillips, Functional Notional Concepts : Adapting the FL Textbook, Language in Education, Theory & Practice, ERIC, (Washington DC. 1982, Center for Applied Linguistics) 中の言語機能の表 (岡まゆみ訳) を参照した。

Ⅳ 本書で使われている記号は次のような意味である。

Ⅱ 類義語 ↓ 反意語

* 誤用例 / どちらの言いかたもできる ○ 正しい用例

用例の頭にある () は、同一単語の用例による意味の違いを表す。

二 本書に採用した日本語文法

動詞はその活用によって、U動詞 (五段活用動詞・子音動詞)・RU動詞 (一段活用動詞・母音動

詞）・不規則動詞（行く、来る、する）に分けられる。

●動詞活用表

I u 動詞

	語	例	1 語根	2 連用形	3 現在形	4 否定形	5 意思形	6 過去形	7 テ形	8 タリ形	9 タラ形	10 仮定形	11 命令形
ウ行	買う	買 u	買い	買う	買わない	買おう	買った	買って	買った	買った	買った	買えれば	買え
ラ行	回る	回 r	回り	回る	回らない	回ろう	回った	回って	回った	回った	回った	回れば	回れ
マ行	読む	読 m	読み	読む	読まない	読もう	読んだ	読んで	読んだ	読んだ	読んだ	読めば	読め
バ行	飛ぶ	飛 b	飛び	飛ぶ	飛ばない	飛ばう	飛んだ	飛んで	飛んだ	飛んだ	飛んだ	飛べば	飛べ
ナ行	死ぬ	死 n	死に	死ぬ	死なない	死のう	死んだ	死んで	死んだ	死んだ	死んだ	死ねば	死ね
タ行	待つ	待 t s	待ち	待つ	待たない	待とう	待った	待って	待った	待った	待った	待てば	待て
サ行	話す	話 s	話し	話す	話さない	話そう	話した	話して	話した	話した	話した	話せば	話せ
ガ行	泳ぐ	泳 g	泳ぎ	泳ぐ	泳がない	泳こう	泳いだ	泳いで	泳いだ	泳いだ	泳いだ	泳げば	泳げ
カ行	聞く	聞 k	聞き	聞く	聞かない	聞こう	聞いた	聞いて	聞いた	聞いた	聞いた	聞けば	聞け

I ru 動詞

語 例	1 語根	2 連用形	3 現在形	4 否定形	5 意思形	6 過去形	7 テ形	8 タリ形	9 タラ形	10 仮定形	11 命令形
見る	見―	見	見る	見ない	見よう	見た	見て	見たり	見たら	見れば	見よ・見ろ
寝る	寝―	寝	寝る	寝ない	寝よう	寝た	寝て	寝たり	寝たら	寝れば	寝ろ・寝よ

I 不規則動詞（行く動詞・力変動詞・サ変動詞）

語 例	1 語根	2 連用形	3 現在形	4 否定形	5 意思形	6 過去形	7 テ形	8 タリ形	9 タラ形	10 仮定形	11 命令形
行く	行k	行き	行く	行かない	行こう	行った	行って	行ったり	行ったら	行けば	行け
来る	き―	き―	くる	来ない	来よう	来た	来て	来たり	来たら	来れば	来い
する	し・せ	し	する	せず・しない・	しよう	した	して	したり	したら	すれば	しろ・せよ

一 自動詞・他動詞

定義

日本語における自動詞・他動詞の区別は、英語など印欧語の場合のように、統語論的に「他動詞は目的語を取る動詞である」と簡単に定義できない。それは、目的語が必ずしも顕在しないという日本語の統語論的特色から、日本語学習者には、あまり役に立たない定義となるからである。

意味上でもはっきり区別されうるものではなく、外国語の文法上の分けかたをそのまま日本語にあてはめることが無理な動詞もある。また、形の上から区別することも出来ない。「これで演奏会を終わります」・「八時で演奏会が終わります」のように自動詞と他動詞が同じ形のものもある。「漢語十する」の動詞には、この例が多い。

「他動詞はその動作を他の人物または物体に及ぼす動詞」という意味上の定義も、日本語には適用できない例がある。例えば「ここで妻と会う」の「会う」は自動詞である。

結局、動作の結果の状態を表現する場合「もう宿題はやってあります」と「テ＋ある」の形になるのが他動詞、「もうお風呂は一杯になっています」のように「テ＋いる」の形になるのが自動詞と言う定義が、外国語教育としてはいちばん分かりやすいことになる。

用例

意味上対をなす自動詞・他動詞の活用語尾による分類の試みに Mutsuko Endo Simon (A Practical Guide for Teachers of Elementary Japanese, Ann Arbor, MI. The University of Michigan. Center for Japanese Studies. 1984) (pp. 71—72) の方法がある。外国の学習者には習得しやすいと思われるので、少し改めて、用例を挙げておく。

自動詞

(否定形)

他動詞

(否定形)

1 —aru (U動詞)

—eru (RU動詞)

物価が上がる。

(上がらない)

物価を上げる。

(上げない)

宝くじが当たる。

(当たらない)

宝くじを当てる。

(当てない)

体が温まる。

(温まらない)

体を温める。

(温めない)

寄付が集まる。

(集まらない)

寄付を集める。

(集めない)

けんかが収まる。

(収まらない)

けんかを収める。

(収めない)

鍵がかかる。

(かからない)

鍵をかける。

(かけない)

橋が架かる。

(架からない)

橋を架ける。

(架けない)

ドアが閉まる。

(閉まらない)

ドアを閉める。

(閉めない)

犯人がつかまる。

(つかまらない)

犯人をつかまえる。

(つかまえない)

車が止まる。

(止まらない)

車を止める。

(止めない)

自動車がぶつかる。

(ぶつからない)

自動車をぶつける。

(ぶつけない)

ちようちんがぶらさがる。

(ぶらさがらない)

腰が曲がる。

(曲がらない)

土に砂が混ざる。

(混ざらない)

仕事が見つかる。

(見つからない)

ちようちんをぶらさげる。

(ぶらさげない)

腰を曲げる。

(曲げない)

土に砂を混ぜる。

(混ぜない)

仕事を見つける。

(見つけない)

2

—aru (U動詞)

電話がつながる。

(つながらない)

道がふさがる。

(ふさがらない)

目が回る。

(回らない)

—aru (RU動詞)

電話をつなぐ。

(つながない)

道をふさぐ。

(ふさがない)

目を回す。

(回さない)

3

—iru (U動詞)

店が開く。

(開かない)

腰が痛む。

(痛まない)

ビルが建つ。

(建たない)

気が付く。

(付かない)

火がつく。

(つかない)

連絡が入る。

(入らない)

旅が続く。

(続かない)

—aru (RU動詞)

店を開ける。

(開けない)

腰を痛める。

(痛めない)

ビルを建てる。

(建てない)

気を付ける。

(付けない)

火をつける。

(つけない)

連絡を入れる。

(入れない)

旅を続ける。

(続けない)

4

—eru (RU動詞)

目が覚める。

(覚めない)

水が出る。

(出ない)

氷が溶ける。

(溶けない)

うわさが流れる。

(流れない)

髪が濡れる。

(濡れない)

秘密が漏れる。

(漏れない)

—asu (U動詞)

目を覚ます。

(覚まさない)

水を出す。

(出さない)

氷を溶かす。

(溶かさない)

うわさを流す。

(流さない)

髪を濡らす。

(濡らさない)

秘密を漏らす。

(漏らさない)

5

—eru (RU動詞)

すいかが冷える。

(冷えない)

体重が増える。

(増えない)

財産が殖える。

(殖えない)

木が燃える。

(燃えない)

髭が生える。

(生えない)

—yasu (U動詞)

すいかを冷やす。

(冷やさない)

体重を増やす。

(増やさない)

財産を殖やす。

(殖やさない)

木を燃やす。

(燃やさない)

髭を生やす。

(生やさない)

6

—eru (RU動詞)

木が倒れる。

(倒れない)

テレビが壊れる。

(壊れない)

火が消える。

(消えない)

—su (U動詞)

木を倒す。

(倒さない)

テレビを壊す。

(壊さない)

火を消す。

(消さない)